

東部保健所 国東地域(国東市・姫島村)感染症情報

令和6年第51週(12月16日～12月22日)

・インフルエンザ

東部保健所国東地域では、インフルエンザの発生報告数は先週に比べ増加し、注意報レベルにあります。

インフルエンザ感染は、患者の咳やくしゃみに含まれるウイルスを吸い込むこと（飛まつ感染）と、ウイルスが付着した手を介して（接触感染）起こり、1～3日間ほどの潜伏期間の後に、発熱（通常38℃以上の高熱）、頭痛、全身倦怠感、筋肉痛・関節痛などが突然現れ、咳、鼻汁などの上気道炎症状がこれに続き、通常約1週間で軽快します。治療方法は、症状を抑える対症療法と、抗インフルエンザ薬による治療が中心となりますので、インフルエンザの感染が疑われる場合には、早めに医療機関を受診するように努めましょう。対策として手洗い・うがいの励行、咳エチケットの実施、人混みでのマスクの着用等の予防を徹底するように心がけましょう。

・感染性胃腸炎

東部保健所国東地域では、感染性胃腸炎の報告数が増加してきています。

感染性胃腸炎は、ロタウイルスやノロウイルスなどのウイルスや細菌によって引き起こされる胃腸の疾患で、一年を通じて発症しています。ウイルスによるものは毎年秋から冬にかけて流行が認められます。症状は原因となるウイルス等によって少しずつ異なりますが、発熱、下痢（水様便、血便など）、腹痛、悪心、嘔吐などです。多くの場合、患者との接触や、汚染された水、食品によって経口的に感染します。手洗い、うがいを励行し、日常的に清潔を保つことが重要です。排便後や調理前は石けんと流水での手洗が大切です。タオルの共用を避けることも必要です。十分な睡眠と栄養を取るようにして体調を良好に保つようにしましょう。

***年末年始は、帰省や旅行等で人の動きが活発になり、また人が多く集まる機会も増えてきます。感染拡大を防ぐためにも、手洗い・うがい、適切なマスクの着用、定期的な換気等の基本的な感染予防対策を行ってください。**

(第51週)

疾患名 年齢	インフルエンザ	新型コロナウイルス感染症	RSウイルス感染症	咽頭結膜熱	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	感染性胃腸炎	水痘（みずぼうそう）	手足口病	伝染性紅斑（リンゴ病）	突発性発疹	ヘルパンギーナ	流行性耳下腺炎（おたふくかぜ）	マイコプラズマ肺炎	麻疹（全数報告）	風しん（全数報告）	百日咳（全数報告）	つつが虫病（全数報告）
0歳					1.00												
1～3歳				1.00		1.00											
4～6歳	0.50																
7～9歳	2.50				4.00	2.00											
10～14歳	1.50	1.00			1.00												
15～19歳	3.00	0.50			1.00												
20歳以上	12.00	4.00															
今週	19.50	5.50		1.00		3.00											
70歳以上（再掲）		0.60															
先週	8.00	4.50		1.00		3.00							3.00				

指定された医療機関(定点)から報告された患者数を、1定点あたりに換算して計上しています。
(定点医療機関数; インフルエンザ/COVID-19定点 2、小児科定点 1)

疾患ごとの警報・注意報の基準値

※単位は定点あたり報告数

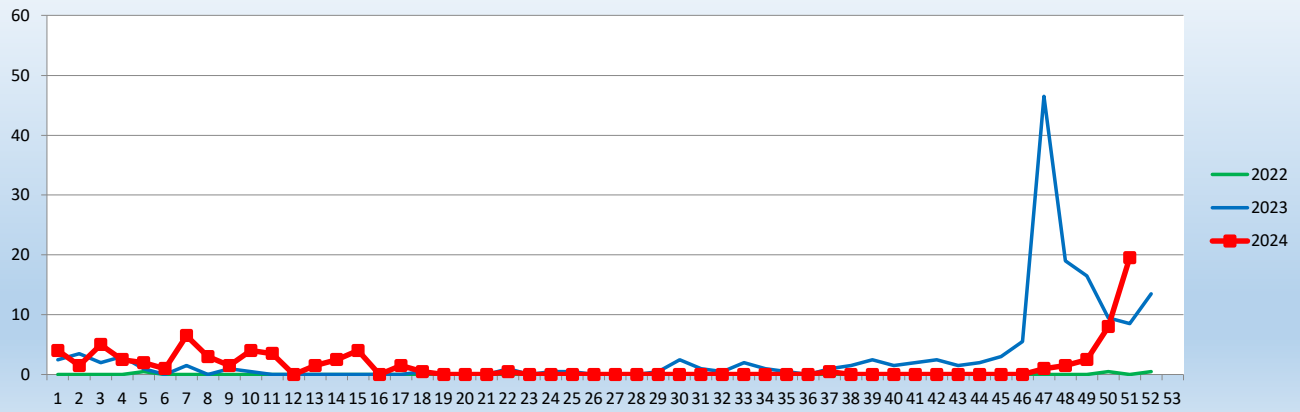
	警報レベル		注意報レベル
	開始基準値	終息基準値	基準値
インフルエンザ	30.0	10.0	10
咽頭結膜熱	3.0	1.0	-
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	8.0	4.0	-
感染性胃腸炎	20.0	12.0	-
水痘	2.0	1.0	1
手足口病	5.0	2.0	-
伝染性紅斑	2.0	1.0	-
ヘルパンギーナ	6.0	2.0	-
流行性耳下腺炎	6.0	2.0	3
急性出血性結膜炎	1.0	0.1	-
流行性角結膜炎	8.0	4.0	-

警報レベル: 大きな流行が発生または継続していると疑われることを指します。

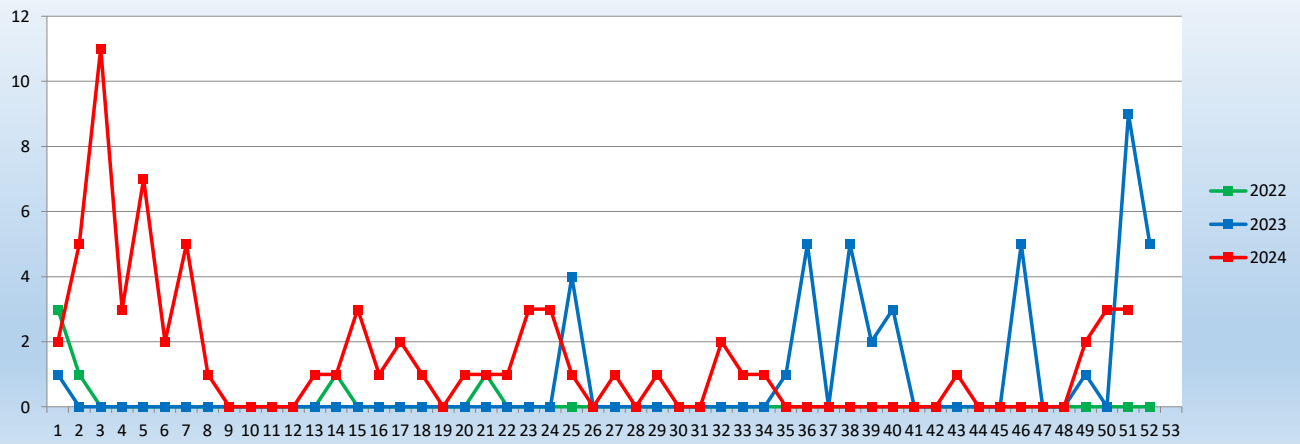
注意報レベル: 流行の発生前であれば今後4週間以内に大きな流行が発生する可能性が高いこと、流行の発生後であれば流行が継続していると疑われることを指します。

過去3年間の発生動向(国東地域)

定点当たり報告数 インフルエンザ



定点当たり報告数 感染性胃腸炎



定点当たり報告数 咽頭結膜熱

